

企業名：イビデン

レポート名：統合報告書 2021

1. この会社が目指す未来が想像できるか

未来は想像できない。当社は地球環境に配慮しながら時代に即した形で事業を展開しようとしている。当社は水力発電事業からはじまり炭素製品開発、電子事業、そして現在はセラミック事業を展開してきた。このように時代の変化に合わせて業態を変化させてきた歴史がある。また企業理念として自然環境との調和や豊かな社会の実現を掲げており、その方向性を示す指針の一つが 2030 年に向けた世界共通のゴールである SDGs を念頭に置いている。また事業を通じた社会貢献は、ESG 経営のもと、環境・社会・ガバナンスの側面で、TCFD 提言への賛同といった世界の基準に適応したプロセスを進めてきた。しかし当社が目指す未来、どのような会社になりたいのかは想像できない。

2. この会社の競合優位性が理解できるか

理解できる。当社は時代の変化に一早く対応することで今現在において社会で必要とされているものを幅広い事業経験を元に供給している。それが売上という形に現れていて格付投資センター（R&I）から評価としてシングル A 格を獲得している。

3. 競合優位性が持続するかどうか理解できるか

持続できる。本統合報告書には現在の事業状況だけでなく事業環境変化に対するリスクと機会とその対応策についても述べられている。まず事業状況について、主力事業とコア技術、グローバルサポート体制、価値創造ストーリーについて説明がされている。しかし、それだけではなく事業環境の変化と中長期的な経営戦略のページでは 100 年以上に渡って社会の環境変化に対応してきた経験を元に、この先に想像し得るリスクと機会につつまれられており各項目の具体的な対応策が簡潔でわかりやすく射っていた。現在の自社の分析だけにとどまらず未来のことも視野にいた分析がされており、社会の変化にいち早く対応する準備ができているため競合優位性は維持できると感じた。

4. 自身の人的資本の価値向上を達成できていると思うか

思う。まず当社の企業体制として社会の変化に対応しながら事業を変遷させていくことから、今現在社会で求められているものを考える力、つまり社会に対する洞察力が

養われると考えられる。また企業理念として自然環境との調和や豊かな社会の実現を掲げているため世界的に問題になっていることやその解決のためにどのような方向性で歩いていくのかといったグローバルな視点を養うことができると考える。

## 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

会社としてどういった歴史があるのか、現在の事業状況はどうなっているのか、将来的に考えられるリスクにどう対処していくのか、これからどういう道を歩いていくのかについては理解できたが会社としてのゴールが明確化されていなかったのが改善点として挙げられる。